

協定校への留学
留学報告 2013・2014

 愛知県立芸術大学

目次

チェンマイ大学(タイ) 南村遊さん	1
ケルン音楽大学 (ドイツ) 福本真弓さん	7

チェンマイ大学(タイ) 留学報告 Vol.1

美術学部 彫刻専攻 南村遊さん

現在留学中のチェンマイ大学美術学部では、留学生である私に対して、専攻の先生方をはじめ、国際課の方々、学生の皆さんが大変やさしく丁寧に接して下さるので、のびのびと制作し、学ぶことができます。



私は、日本では感じることのできない刺激を求めてタイに留学しました。それは、文化や習慣などを学ぶ、と言う事です。1か月たって分かったことは、留学は、自分が何をしたいのか、何が自分に大切なことなのか、を改めて考えることができるものである、と言う事です。いい作品をつくりたい、現地の友達と会話をしたい、遊びたい、歴史文化を学びたいなど、学生としての様々なことはもちろんしっかりと学んで帰りたいと思っていますが、必要不可欠な自身の要素を、少しでも見つけたいと、今は感じています。そのために、勉強すること、制作すること、食事をする事、遊ぶことなど、きっちりと全力でやりたいと思います。写真はロイクラトン祭りの写真とナイトバザールの写真、タイ料理の「カオマンガイ」の写真です。





<チェンマイ大学美術学部について>

1. 授業・カリキュラムについて

愛知県芸とは完全に異なったカリキュラムです。私の取っている授業では制作開始前に、コンセプトをしっかりと練り上げ、制作する作品のプレゼンテーションを行います。そこで審査を通過しなければ制作に移ることができません。何をどうしてつくるのかということ、明確にしてから制作を行います。

2. 言語について

タイ語を喋ることができれば完璧ですが、英語でもコミュニケーションをとることはできます。日本語だけでは、かなり厳しいです。

3. 大学からのサポートについて(留学生に対して)

永曾先生と特別講師として彫刻科に在籍なさっている河原先生に、大変お世話になっており、すぐに大学や町になじんでいくことが出来ました。大学の国際課のかたにも大変お世話になり、大学案内や専攻する学科の先生方への紹介など、授業が始まる前に勉強がスムーズに行えるようにしていただきました。

<チェンマイ留学中の生活について>

1. 滞在都市の環境・様子

チェンマイはタイの北部にある街です。ランナーの文化が、建築や生活習慣になど、随所に見受けられることができ、とても面白いところです。治安も、私の住んでいる所はさほど悪くありません。巨大なチェンマイ大学の学生が多く住む、学生街です。ただ、空気だけは、少し悪いです。

2. オススメ

チェンマイ大学自体がすでにチェンマイの見どころと言ってもいいかもしれません。建築、習慣、食生活など、様々な文化を見ることができると思います。また、歴史溢れる多くの寺院も見どころだと言えます。

3. 注意すべき点

車やバイク、自転車など、徒歩以外の移動をするとき事故に気を付けなければならぬと思います。日本の交通ルールとかなり似ていますが、タイ独自のルールが存在しますので、日本と同じだと思って道路に出ないようにした方がいいと思います。また、水道水は飲まない方がいいと思います。

4. 加入した保険について

私はAIUの留学保険に加入しました。チェンマイに来てから疲れで体調を崩してしまい、病院に2回行ったのですが、毎回丁寧な電話で対応してもらい、スムーズに手続きを行うことができました。

5. 滞在先について

現地に着いて2日目に、永曾先生と河原先生が美術学部付近を案内してくださり、さらに滞在先まで一緒に探していただけたので大変助かりました。今は、初日に泊まったホテルを月極めで借りています。清潔で、常に英語の話せるホテルの方がいるので、安心して利用しています。

6. 留学費用について

航空券や保険等の、日本で準備していけるもの自体には特に”高い”と思うものは無いと思いますが(保険はある程度お金をかけてでもそれなりのものに入れておくべき)、現地で必要になる日用品や、食費、光熱費、交通費、制作道具等、当たり前な生活をし、しっかり勉強に集中しようと思うと、いくら物価の安いタイとはいえ、ある程度のお金は必要になります。月々の生活費(家賃も含め)の目標を4万5千円と設定し、1ヶ月過ごしてみましたが大きくオーバーしました。初めに必要なモノを揃えるため、大きくオーバーしてしまったと思いますが、初めての国、町で学生らしく生活するには、その国や町のことをよく知り、なれることが必要だと痛感しました。

7. 滞在許可(査証)取得について(注意点、苦労したこと等)

特に難しいことはありません。しかし、時間的に余裕をもって申請した方がいいと思います。

チェンマイ大学(タイ) 留学報告 Vol.2

5か月と言う、短い留学期間の半分が過ぎました。今回は、私がチェンマイ大学で取っている授業についてお話したいと思います。

チェンマイ大学は5年制の大学です。なので、学部生は1～5年生までいます。私は、4年生なので、チェンマイ大学でも多くの4年生の彫刻科の学生が取っている「彫刻6」という授業をとっています。この授業では、3つの彫刻作品を3か月のうちに提出しなければいけません。1つはパブリックな作品を、残りの2つは自由制作です。そのどれをつくるにしても、作り始める前に、彫刻科教授陣へのプレゼンテーションを行い、制作開始への許可がおりないと制作し始めることができません。私は、このプレゼンテーションを英語で行いましたが、タイ語で行い、先生がたとコミュニケーションできるように準備しておく、完璧だなと感じました。彫刻の多くの先生がたは英語を話せますが、作品の内容まで突っ込んだ話は、中々英語ではお互いに伝え合い、理解しあえることは難しかったです。

さて、私が、制作を開始して強く感じたチェンマイ大学と愛知県芸の授業とのギャップは、求められる作品制作のスピードの違いです。チェンマイ大学では、とにかくスピードが求められます。お気づきの方もいらっしゃるでしょうが、1つの授業で3か月以内に3つの作品制作を求められるのです。多くのチェンマイ大学の学部生は、このような授業を4～6つ、半期に取っています。1つの授業で最低2つの課題提出を求められるとしても8～12の課題を約3か月のうちに提出しなければならないのです。どれだけスピードが作品制作にとって重要であるか、と考えるチェンマイ大学の姿勢がうかがい知れることができると思います。



このほかに、私は「タイ彫刻」という授業を取っています。県芸で言う日本美術の授業にあたるかと思います。タイの彫刻作品に限らず、絵画や宗教美術等も含めた、タイ特有の芸術を学ぶ授業です。座学の他に、タイ独特の油粘土に似た素材を使って作品をつくります。

このように、チェンマイ大学と県芸では、当たり前ですが様々なことが違います。授業スタイルはもちろんのこと、扱う素材、制作環境、機材(細かく言うと、粘土の質や塗料などの質、それに伴う制作過程の違い等)など、日本で当たり前のことが、ここでは当たり前ではないのです。これは、言葉でわかっているとしても、現地で体感してみると予想以上に大きな変化です。よって、自分の技術や、考え方などを真っ新たな状態で制作に取り組むことができます。日本での制作等に行き詰まりを感じている人であれば、必ず新しい刺激をここで得ることができるのではないかと思います。



ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.1

音楽研究科博士前期課程 鍵盤楽器領域 福本真弓さん

大学について

校舎は近代的な建物で、オープンなスペースも多くあり、学生が常にたくさんいます。ケルン音大は学生の人数に対して、練習室が非常に少ないようで、私も練習室の待ち時間に学内で友達とコミュニケーションをとったりします。

授業・カリキュラムについて

所属コース: Master of Music, Piano-Solo

指導教官: ニーナ・ティッチマン教授(Prof.Nina Tichman)

まず、週に1時間の実技レッスンがあり、金曜日の午前中に留学生向けのドイツ語の授業、そして室内楽のレッスンが不定期にあります。ほかにも履修できる授業はあるようです。また、ほぼ毎週、クラスの試演会があり、クラスの友達の演奏を聴き合って、良い刺激を受けています。



語学について

日本では前々から継続的に文法の勉強をしていたのと、留学が決まってからドイツ人の先生の所へ習いに行っていました。まず、レッスンではドイツ語で受けようと努力していますが、まだまだ分からない単語ばかりなので、理解できない場合は英語で説明してもらっています。

大学からのサポートについて(留学生に対して)

betreuungsbuero といって、困ったことがあればなんでも尋ねに行くことができる部屋があり、ちょっとしたことでもすぐに助けてくれます。学務課も丁寧に対応してくれますが、学内のどの課も、受付・対応時間が短く、1日に2~4時間です。

生活について

ケルンはとても住みやすい街だと思います。買い物をするところにも困らないし、緑もとても多く鳥のさえずりがよく聞こえます。ケルン大聖堂の近辺は観光客も多いのですが、大学は中央駅を挟んで反対側にあるため雰囲気も落ち着いています。いろいろな手続きのため、街中をたくさん歩きましたが、散歩をするだけで楽しめます。

オススメ

ケルンフィルハーモニーでは毎日のように演奏会があり、有名な演奏家もたくさん来ているようです。ピアノリサイタルを聴きに行ったのですが、そのホールの形と響きがとても印象的でした。当日売り出される立見席を学生料金で買うことができ、手軽に何度も聴きにいけるのでおすすめです。学内でも学生や先生方の演奏会があり、そちらにもよく聴きに行っています。

注意すべき点

今のところ特に危ない目には合っていませんが、盗難にあわないように常に荷物には注意しています。学内の練習室でさえ、鍵をかけていても荷物を取られることがあるそうです。

加入した保険について

私は、日本の海外留学保険には入らず、ドイツの格安保険だけに入りました。滞在許可証の申請のためには、歯の治療に関する保険に入る必要があり、日本の海外留学保険だとこれは含まれていません。ドイツの保険は、歯の治療に関する保険も含まれています。

滞在先について

私はいま、大学から徒歩 15 分ほどのところに間借りの形で暮らしています。今は、家主のおばあさんと一緒に住まわせてもらっているのですが、今月末にはおばあさんはフランスへ半年ほど行かれてしまうので、一人暮らしになります。おばあさんはとても親切で、一緒に話しているとドイツ語の勉強にもなります。また、音楽が好きな方で、家にアップライトピアノが置いてあり、毎日 3 時間ほど弾くことができます。

留学費用について

留学費用については、月に家賃 500 ユーロ(光熱費等込み)、生活費 200 ユーロほど月々かかります。ほかに、渡航費や滞在許可申請の際に 50 ユーロかかりました。学務課の方が教えてくださった奨学金を申請し、受給できることに決まったので大変助かっています。

滞在許可(査証)取得について(注意点、苦労したこと等)

事前にインターネットで外人局の場所を調べて行っただけですが、そこではなく、別の場所を教えてもらい、そこもまた違い、結局 3 度目の場所でたどりつくことができました。場所さえわかれば、必要書類だけ揃えてもっていけば仮ビザを発行してもらえました。本来なら本ビザは家に届くそうなのですが、届かないことが多いと、大学の友達に教えてもらったので、来月直接受け取りに行く予定です。



伝えたいこと

3 月末にドイツに来てから 2 週間ほど、毎日少しずついろいろな手続きを澄ましてきました。はじめ、ポストに自分の名前を書き忘れていたので届かなかった書類があったり、学校からの入学許可証をパソコンからプリントアウトする手段がなくて、慌てたこともありましたが、全部なんとか済ませることができました。大学の友達もたくさんできました。日本人の学生も何人かいますし、中国や台湾、韓国からきている学生も多く、みんな仲良くしてくれます。ティッチマン先生のクラスには 16 人も生徒がいて、みんなやさしくてクラス全体の雰囲気もよく、とても居心地が良いです。近いうちに、ティッチマン先生の誕生日会をクラスのみんなでする予定なので、それもとても楽しみです。

また、3 月 30 日からサマータイムが始まりました。30 日の朝起きたら、家中の時計を 1 時間進める作業をする必要があり、初めての体験でした。もうひとつ日本にはあまりなじみのないものとして、イースターがあります。こちらではとても大事な行事のひとつで、祝日と土日合わせて 4 連休でした。イースターでは、あちこちの教会でバッハのカンタータ等が演奏されるのが習慣のようで、私も友達と聴きに行ってきました。毎日あらゆることが新鮮で、あっという間に過ぎて行ってしまうので、これからもいろいろなことに自分から動いていきたいと思います。

ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.2

日常生活

ドイツも暖かくなり毎日過ごしやすく、時折夏のような陽気の日もあります。こちらでの生活にも慣れ、毎朝大学に行って練習→語学学校→大学に戻って練習の日々を送っています。練習時間以外は、門下の友達や日本人の友達と学食でご飯を食べたり、自分の演奏の録音を聴いたりして過ごしています。こちらの学生は、練習ばかりではなく自分の演奏の録音を聴く時間もたっぷりとしているような気がします。たまにある祝日は、完全に大学が閉まってしまい、練習ができないので、のんびりと過ごしたり、郊外へ出かけたりしています。また、今の時期は入試が行われていて、たくさんの受験生が各国から来ています。

レッスン・授業

ティッチマン先生のレッスンは毎回あっという間に終わってしまいます。腕・手の使い方や音の聴き方、練習方法などは、先生が実際に弾きながら指導してくださり、曲全体の流れや構造やハーモニーについては、様々な言い方で私が理解できるまで教えてください。そして、細かいミスなんかよりも自分の音楽をどのように伝えるかが大事だと、いつもおっしゃってくださいます。

毎週の試演会では、一人一人の演奏に対して、先生が感想を言ってくださったり、ほかの子がどのように弾くのか聴き合ったりします。私も何度か弾いたのですが、毎回門下の子がたくさん拍手してくれ、感想を言ってくれるので、それだけでいつもうれしく思いますし、次も演奏して聴いてもらおうという気になります。試演会のたびに、この門下がどんどん好きになります。今月末には、門下の学内演奏会があるので、それに向けて頑張っています。

室内楽の授業では、ヴァイオリンとのデュオを弾いています。レッスンを何回か受ければ単位がもらえるのですが、私の先生は単位に必要な回数以上にたくさんレッスンしてくださり、とても勉強になっています。また、5月の末に一緒に室内楽をやっているヴァイオリンの子の学内演奏会で、演奏させてもらったのですが、そのときに初めて学内の小ホール Kammermusiksaal で演奏しました。



語学学校

5月の中旬に A2 のテストが終わり、B1のクラスに今通っています。音大のマスターに入るためには A2 までで足りるそうですが、まだまだ語学力が足りないと感じることばかりなので、もう少し通い続けるつもりです。語学学校の友達とも、土日に遊びに行ったりするくらいに仲良くなれたので、毎日楽しく通っています。



ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.3

7月に入るとテスト週間が2週間ほど続くのですが、私の場合は、留学生向けのドイツ語のテストと、レッスンも1週目までだったので、夏ゼメスターはすべて終わりました。ティッチマン先生から冬ゼメスターのレッスンの許可を頂けたので、とても嬉しく思っています。

6月末に門下の学内演奏会がありました。ケルンかアーヘンのどちらかで演奏することができたのですが、私はケルンで弾かせてもらいました。ソロとしては初めての学内演奏だったので、とても緊張すると思っていたのですが、先生の指導の下、試演会でも何度も弾いたことや、門下の友達みんなの意気込み、客席の温かい雰囲気のおかげで、リラックスして弾けました。また、“細かいことは気にせず、どのような音楽を伝えたいかだけを考えて”と、先生がいつもおっしゃってくださる言葉を思い出し、演奏できたと思います。演奏会後に、多くの方に褒めてもらえて大変うれしかったです。他の門下の学内演奏会もよく聴きに行きますが、その中でもティッチマン先生の門下はレベルが高いと感じました。冬ゼメスターにも学内演奏会があるので、また頑張りたいです。



最近、学内で毎日のように卒業演奏会があるので、それをよく聴きに行っています。また、先月から毎週火曜日にケルン大聖堂でオルガンコンサートがあり、時間がある限り足を運んでいます。大聖堂の中でのオルガンは、今までに聴いたことのないような響きで、プログラムも毎回多種多様で、バッハはもちろん現代曲も聴くことができ、とても興味深いです。

こちらでは、W杯が大変盛り上がりました。私も何度か、スポーツバーの大画面で友達と応援しました。自分がドイツにいる年にW杯が開催され、しかもドイツが優勝したので、本当に楽しめました。街中には、ユニフォームを着ている人や、顔にペイントをしている人がたくさんいて、学内にも国旗が飾られていたり、ドイツ人はサッカーが大好きです。また、試合開始前に、各バーで管楽器の学生が国歌を演奏することもしばしばあり、このような所からも、ドイツでは音楽が身近に感じることができます。

語学学校もきりがつき、もう夏休みに入りましたが、冬ゼメスターの在籍許可ももらったので、今後の予定をきちんと目標を定めて決めていかなければと思っています。まずは、休暇中にドイツでの講習会に参加し、秋にはこちらでコンクールを受けたいと思っているので、情報を集めているところです。



ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.4

10月から冬ゼメスターが始まりました。新入生も加わり、大学構内はとてにぎわっています。歓迎会のようなものが行われ、ホールでの演奏会のあと、ロビーにいる学生みんなで乾杯しました。なんとビールが飲み放題でした。



ティッチマン先生のクラスにも新入生が6人も入ってきました(そのうち一人は日本人でした)。弾き合い会で、新しい子の演奏が聴けるのが楽しみです。レッスンも、春と比べて慣れたこともあり、たくさん学ぶことがあり、毎回あっという間にレッスンが終わってしまいます。最近よく注意されることは、どのフレーズとフレーズをつなげて弾くのか、どのフレーズで一区切りつくのかなど、曲の構造をきちんと理解して弾くことです。そうすることで曲を長く感じさせずに、聴いている人にもどのような曲なのかわかりやすくなります。

ピアノのレッスン以外に、チェンバロとフォルテピアノの授業 *Alte Musik* と、*Atem-seminar* という、演奏時の姿勢と呼吸法についての授業を受けています。あと、今回も室内楽をヴァイオリンとのデュオとピアノトリオの2グループ組んでいます。それぞれピアノの先生とヴァイオリンの先生のレッスンを受けています。

Alte Musik の授業では、毎回2人くらいの学生のレッスンを他の学生が聴講する形となっています。多くの学生が主にチェンバロでバッハの作品を弾くのですが、先生もいろんな曲を演奏して下さったり、その曲について話したり下さったりと、とても興味深い授業です。また、すぐ目の前でフォルテピアノを聴いたのは初めてだったので、その音やペダルの使い方に感動しました。

このように春よりも授業をとり、練習室の確保もせねばならず、忙しくも充実した毎日を送っています。日本人の学生も増えたように感じます。また、あらゆる演奏会に足を運んでいます。今月はすでに週2のペースで聴きに行っています。ピアノのソロ、リート、オーケストラ、コンチェルト、オペラなど様々です。夏休みにはウィーンフィルハーモニーがケルンに来たのですが、なんと 10 ユーロ(立ち見席)で聴くことができました。演奏はもちろん素晴らしかったです。他に印象に残った演奏会は、モーツァルトのコシ・ファン・トゥッテのオペラを見に行き、日本との演出の違いに驚きました。服装をはじめ、主人公がバドミントンをしていたり、演出が現代風でした。ドイツ人の友達に聞いたところ、ドイツの大きな都市では何十年か前から、モダンな演出が多いそうです。

9 月の終わりに、県芸から先生方が演奏会をしにいらっしゃっていたり、学生も一緒に来ていたり、ケルンとの交流が盛んに行われているんだなと感じました。来年度以降留学する子のためにも、こちらにいる間に少しでも多くの情報を発信できたらと思います。



ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.5

11月になると、日も短くなり、気温も10度前後の日が続いています。修士試験を控え、帰国する日も近づいていると思うと寂しく思う毎日です。

最近のレッスンでは、主に新しい曲をみてもらい、その一方で毎週の試演会で修士試験の曲を弾くという形で、指導していただいています。新しい曲の中には、今まであまりやってこなかった現代曲の課題もあり、修士試験の準備とほかの曲に追われています。門下生の中にも、試験を控えている子が何人かいるため、試演会を重ねるごとにみんなうまくなっているのがお互いに分かるので、とても良い刺激になります。また、先生が動画を撮ることを勧めていることもあり、家に帰ってから、自分の演奏を見て勉強することもあります。

11月の頭に、ライン川沿いの小さなお城で演奏してきました。これは、若い音楽家のためのプロジェクトで、オーストラリアから旅行に来ているお客さんのディナーの時間に、演奏するというものです。ティッチマン先生がこのプロジェクト関わっているので、毎月門下生の中から何人か弾きに行っていて、私にもその機会を頂きました。クラシックに詳しくない人でも聴きやすいような選曲で、また、演奏前に英語で簡単な曲紹介をしなければならなかったことが少し負担でしたが、とても良い経験になりました。響きもよい所でしたし、お客さんも温かく、豪華な食事も頂けたので大満足でした。



今月、Claviernacht という鍵盤楽器全体の大きいコンサートがありました。毎年催されているもので、学内のいくつかのホールやロビー、隣接している教会を使って、19 時半から夜中 0 時まで、いくつものコンサートが同時に行われます。お客さんはタイムテーブルを見ながら、選んで聴きに行きます。全体のテーマが”ダンスへの誘い”だったので、バレエ音楽、スペインの音楽、オルガンとダンス等、様々なテーマにちなんだコンサートが先生や学生によって企画され、また、ダンスの学部の人も交えたものもありとても興味深かったです。

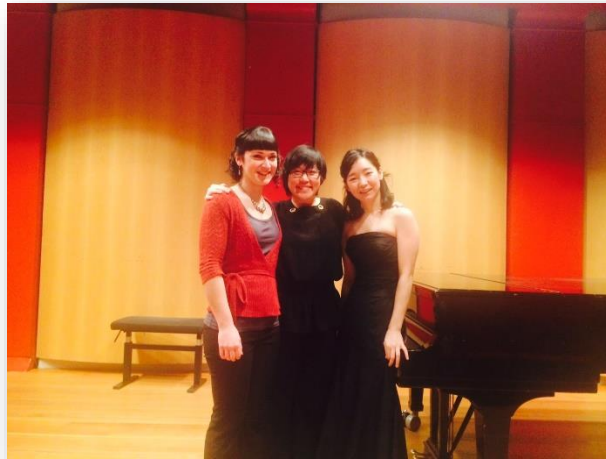
12 月には、室内楽と門下の学内演奏会がそれぞれあるので、それに向けて頑張りたいと思っています。街もクリスマスマーケットが始まるので、すごく楽しみです。



ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.6

日に日に寒くなってきて、雪も何度か降りました。しかし、ドイツの中ではケルンは温暖な方で、風もあまりなくそれほど寒くは感じません。

11月の末に、春と一緒に住んでいたおばあちゃんが戻ってきました。春よりも大学が忙しく、練習もしなければならぬので、家でゆっくり過ごす時間があまりないのが残念ですが、二人で食事をとるときは色々おしゃべりをします。前よりも少しは話せる内容が増えた気がします。あと、何度か一緒にご飯を作ったりもしました。



今月は、2回の学内演奏会がありました。室内楽の演奏会(12/15)では、ベートーヴェンのピアノトリオを演奏しました。ヴァイオリンの先生のレッスンをそれまでに5回ほど受け、弦楽器だけでアンサンブルをする際と、ピアノと一緒に演奏する際と、どのように異なるのか、たくさん教えていただきました。また、ベートーヴェンは常にオーケストラをイメージしなければならず、先生がこの箇所はどの楽器のイメージか質問し、それを3人で考えて演奏会に備えました。いつも学内演奏会が行われるKammermusik Saalは弦楽器があまり響かないため、バランスをとるのが難しかったのですが、落ち着いて弾けたかと思えます。門下の演奏会(12/20)では、もうKammermusik Saalで弾くのも4,5回目だったので気持ちもだいぶリラックスして弾けました。今回も、この日のために毎週の試演会で練習を積んできたことも、自信につながっていたのだとも思います。土曜日の夜だったので、お客さんもたくさん聴きにきていました。両方の演奏会に、おばあちゃんが聴きにきてくれて嬉しかったです。



門下の演奏会の次の日は、ティッチマン先生のご自宅で、クラスパーティーがありました。各自一品持ち寄りだったのですが、私の門下は本当にいろいろな国の子がいるので、料理もおいしく、ピアノを誰かが弾いたり、いろいろな話をしたりと、とても楽しい時間を過ごしました。これからクリスマスと年末年始に向けて、こちらの人はパーティーが続くようです。



これから、修士演奏に向けての練習と帰国準備に忙しくなると思いますが、ドイツのクリスマスと年末年始を満喫したいと思います。

ケルン音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.7

1月8日に無事に帰国しましたが、最後の報告書(冬休み～帰国まで)を書きたいと思います。

12月はドイツではクリスマス一色でした。クリスマスマーケットがケルンの街中にいくつかあり、たくさんの人でにぎわっていました。ホットワインを片手に、いろんなマーケットを回るのが、練習後の楽しみでした。そしてみんなパーティーが大好きで、私もケルンの友達と夜にお祝いしたり、一緒に住んでいるおばあちゃんともお祝いしました。クリスマスプレゼントとして、クリスマスソングの楽譜を頂きました。私も、ドイツ語で書かれている日本食の料理本とジャムを作って渡しました。



ドイツの年越しは日本とは全く異なったものでした。ライン川沿いで花火が打ち上げられ、それに一般の人々も便乗して、通りや広場でも市販の花火等をあげるので、外はとても騒がしく煙くさかったです。日本の除夜の鐘のように、ケルン大聖堂の一番大きくて古い鐘が鳴るらしいのですが、花火のせいで狭い範囲でしか聞くことができないそうです。私は大聖堂の近くにいたにもかかわらず、聞こえませんでした。しかし、異なる文化の新年の迎え方を体験できてよかったです。



大学に関しては、クリスマスの 25 日から 10 日間ほど閉まってしまうので、特にピアノの学生は練習場所の確保に苦労しました。ティッチマン先生の門下では、先生がみんなの練習場所を心配して下さり、みんなで使えるスタジオを借りて時間を配分して練習することができました。1/5 から再び大学が始まり、授業と最後のレッスンがあり、ぎりぎりまで大変でした。ティッチマン先生のレッスンでは、修士演奏のプログラムを聴いていただき、曲全体の流れや、次の曲を弾く前にどう切り替えるか、またどう弾き始めるか等、修士演奏に向けての全体的な指導をしていただきました。最後のレッスンが終わり、先生とお別れするときは寂しいのと感謝の気持ちでいっぱい涙が出ました。門下のみんなや友達とお別れをするのも、とても寂しかったです。

留學生活、いろいろなことがありましたが、先生、門下の友達をはじめたくさんの人に支えてもらって、無事終えることができました。たくさんの音楽と触れ合え、自分の音楽とも向き合うことができ、本当に貴重な経験でした。本当にありがとうございました。

